連載

チャレンジする Someone NEWS ～挑戦者の履歴書

第40回

雷神ジャパンと雷神
――神格化された力強さと形で圧倒

一般社団法人 洸楓座　代表理事　佐藤 建吉

昨年、東京オリンピック2020を終えたが、いま、その傍に纏わる賄賂事件が世間を混乱させている。スポーツは、心技体による表現であり自己との闘いのはずであるが、スポーツをビジネスにすると、その舞台（競技場や畳）を汚す。

スポーツの祭典として、1964年の東京オリンピックでは、「より速く、より高く、より強く」が標語として掲げられた。4語に増やすとシマリに欠けるからか、「より美しく」は、加えられなかった。美しいカタチや動作はエネルギー的にも無駄がなく、「より速く、より高く、より強く」を導くので、大いに大事であると筆者は考える。

今回取り上げる「空手」も、「より速く、より強く」が体現されるのであり、結果として「より美しく」をも導く。全日本空手道連盟は、東京オリンピック2020に向けて、空手の日本選手団に「雷神ジャパン」という愛称を付けた。オリンピックへの空手の参加は今回が初めてであった。

雷神ジャパンには、当初、男子34名、女子32名の強化選手が選ばれた。

共同通信社の許可を得て掲げた喜有名諒選手の演技写真◀

筆者所有の俵谷宗達筆「雷神」の木版（悠々洞出版）

オリンピックでの対戦結果は、金メダル／男子（形）・喜友名諒、銀メダル／女子（形）・清水希容、銅メダル／男子（75キログラム超）荒賀龍太郎であった。以下では、主に喜友名諒（きゆなりょう）選手について、また雷神（関連で風神）について述べる。

▼空手発祥の地、沖縄出身 喜友名諒の活躍

空手は日本が母国であり、発祥地は沖縄である。このことについては、本連載コラムの第26回において、全日本空手道一友会の名誉会長、野口正行氏の紹介においても述べた【註1】。そのコラムでは、空手道の概要説明と4大流派、さらに形や用語についても述べた。

その「雷神ジャパン」の代表的な選手は、喜友名諒氏である。同氏は1990年〈平成2年〉7月12日、沖縄県沖縄市生まれ。劉衛流龍鳳会（りゅうえいりゅう りゅうほうかい）所属で、興南高等学校、沖縄国際大学出身である。前述のように、2021年東京オリンピック、空手男子「形」で金メダルを獲得した。それ以前の、世界空手道選手権大会では2014年から連続金メダリストである。現在32歳。

喜有名選手の英姿を、そして雷神に似た突き手と引き手の一瞬の写真を上に掲げた。こうして、空手の故郷、沖縄に栄誉をもたらしたといえる。

また、女子の形で銀メダルを獲得した清水希容選手は、1993年12月7日生まれ）は、大阪府吹田市出身で、現在ミキハウス所属（関西大学文学部卒業）である。

男子の組手75キログラム超で、銅メダルを獲得した荒賀龍太郎は、1990年10月16日生まれ、京都府亀岡市出身で、出身大学の京都産業大学の空手部コーチである。両親、姉・弟も空手一家（剛柔流）である。

▼空手の「形」（型）とは

空手競技には、二つのジャンルがある。形と組手（重量階級別）である。形は、個人での演技である。一方、組手は二人での対戦で、階級は体重により男子67キログラム、75キログラム級、女子50キログラム、61キログラム、68キログラム級などがある。手袋状の拳サポータを着けて行う。

形について、一友会の解説では次のようにある。「仮設された外敵からの攻撃を、有意義な受け身と効果的な反撃を体系的に構成し、その理論に基づいた解釈をもって単独で演武するものである。また、剛柔流の「形」は技術面ばかりでなく身体の鍛錬や内面的な精神の統一を図ることを目的としているものである。」

空手の形や組手を観察していると、畳の上で繰り広げられる静と動、その変化（キレある動き）、蹴り、跳び、着地、バランス、その流れるしなやかさと力強さなど、対立や矛盾する挙動をつくり、相手を攻撃し自分を防備する。

都合よく言えば、風神と雷神のもつエネルギーと変化がまさに合致する。それは、自然現象にも、そして空手という拳法にも共通するダイナミズムといえる。

▼雷神像と風神像

前述したように、「雷神JAPAN」（雷神ジャパン）は、平成27年（2015年）に全日本空手道連盟が空手の日本代表に用いた。風神雷神に由来し、相応しい。その命名は、雷神は日本神話の建御雷神（たけみかづちのかみ）に由来し、英語の「rising（太陽が昇ること）」にも掛けてものようだ【註2】。

雷神に出合うのに便利なところが、東京の浅草にある雷門である。まさに、赤字に黒で「雷門」と書かれた大提灯がぶら下げられている。最近ではインスタグラムの名所である。

実は、提灯の左右には、雷神と風神があり、「風雷神門」が正式名称であるという。風神と雷神は名のとおり風雨を司る神であり、風水害を除け、伽藍を鎮護するために祀られた。同時に、風雨順時と五穀豊穣の祈りも込められている。

浅草の現在の門は、昭和35年に松下電器産業（現パナソニック）社長・松下幸之助氏の寄進により、再建された。当時、松下氏は関節痛を患っていたが、それを聞いた当山中興第24世、清水谷恭順貫首が、本尊に祈願すると快復し、その御礼として松下氏個人が寄進したという。

もう少し、雷神について勉強してみたい。通常、風神と雷神は対になっている。

まず、日本大百科全書（ニッポニカ）「雷神」の解説では、雷神とは、日本大百科全書によれば、「雷鳴と稲妻を神格化したもの。雷をおこす神。（略）その名号を書いた札を天井に貼っておくと雷が落ちないという。（略）平安時代には、御霊信仰と結び付き、北野天満宮に祀られている菅原道真は火雷天神ともいわれ、これを祀っている所には落雷することはないとされている。（略）『北野天神縁起』絵巻などに、雷神は鬼の形で、手に桴（ばち）を持ち連太鼓を負う姿で描かれている。」

精選版日本国語大辞典でも「雷神」は、「雷鳴と稲妻を神格化したもの。かみなりを起こす神。鬼に似た姿をして虎の皮のふんどしをしめ、輪形に連ねた太鼓を負い、手にばちを持つとされる。」。一般の美術品では、風神と一対になって造形されるのが例である。

筆者が訪ねたことがある風神像と雷神像は、日光の輪王寺にある。こ2像は、オリジナルは保存し、それぞれ複製品を製作し、2019年に展示されている。風神像は、物理的に合理的な風袋を肩に掛けている。雷神は、連太鼓を背後に掛けバチを持っている。

これら、風神、雷神は、風袋から風を吹き出し風雨をもたらす風神と、太鼓を叩いて雷鳴と稲妻をおこす雷神の活動の姿をしている。風神や雷神への信仰は古くからあったが、一対の風神と雷神での作品としては、中国伝来のようである。中でも京都の三十三間堂の風神像、雷神像（国宝）は鎌倉時代の作品で、鼓は胴を繋いで、鼓面を撥で叩けるようにつくられている。国内に現存する風神雷神の彫像では最も古い。

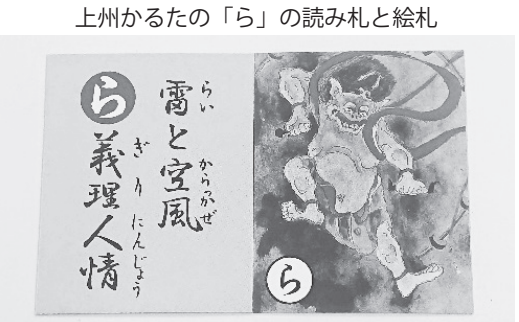
風神雷神図も多くある。俵屋宗達筆の屏風画が有名で、琳派の絵師をはじめ、多くの画家によって作られた模作や模写が多数ある。筆者は、宗達の屏風絵の風神、雷神を、抜き出して金蒔絵とした木版の2面を所有している。結構のお宝と思っている。

日光山輪王寺大猷院の風神像（右）と雷神像（左）

▼雷との関係

菅原道真に由来して、同氏を祀る神社は、天満宮と呼ばれることは前述した。それは、火雷天神ともいわれる。そのいわれは、藤原時平などの首謀で大宰府に流された道真の恨みで、京都の後醍醐天皇などの居殿である清涼殿が落雷し、官吏が焼死したとの伝説がある。また時平なども変死している。この清涼殿落雷事件に関わることで、道真は、天満大自在天神（てんまんだいじざいてんじん）と神格化された。これは、雷の火雷神と結び付けられ火雷天神（からいてんじん）と呼ばれるようになった。天神さまは、実は雷（落雷）と密接であった。

雷おこしの缶（見事な雷神が加工されている）



上州かるたの「ら」の読み札と絵札

アイウエオ順で構成されている「上州かるた」では、「ら」には「雷と空風 義理人情」と教えている。冬から春にかけて北関東に吹く空っ風と、夏に轟く雷は群馬県の地形が生んだ上州名物である。こういう自然の名物の他に、群馬の県民性が人情に厚く義理に固いというのも特色といえる。なお「り」では、「理想の電化に電源群馬」と教えている。

また、風力発電では雷撃が大きな問題である。日本海側の冬季雷と呼ばれる落雷事故は、大きな対策である。筆者は、素人ながら自然の雷を充電できないものかと思うが、如何だろうか？

「雷おこし」という浅草土産がある。四角の鉄製の缶が入れ物で表には宗達の雷神がエンボス加工で浮き彫りにされている。エレキテルの平賀源内に倣い電気を蓄えたら面白い（電気二重層コンデンサ）。

▼むすび

現在、ウクライナへのロシア軍の侵攻が行われておりその終結の兆しが見えない。早く戦争を終え平和を実現してほしい。世界が平和を維持することには、芸術交流やスポーツ交流などが役立つと思う。日本が伝統である空手も世界のスポーツとなった。日本の浮世絵やアートも世界で評価され賞賛されている。「雷神JAPAN」は、なかなかいい命名であり、スポーツと文化芸術の交流を行うといいエフェクトをつくり出す契機になりやすい。「雷神JAPAN」の選手たちも大いに精進して実力をつけてほしい。

【註1】「新エネルギー新聞」第26回、野口正行氏、『雷神ジャパンは、ライジングSUN』、2022年2月21日（第206号）、http://www.kofuza.com/images/nen_2021_26.pdf

【註2】雷神JAPAN、https://www.senso-ji.jp/guide/guide01.html